

平成 24 年 2 月 27 日

TPP 通信 NO.2:

<TPP 交渉への日本政府の対処方針>

- (A) 米などの重要品目について配慮しつつ、全ての品目が自由化交渉の対象。
- (B) そのうえで全 9500 品目のうち、まず 8 割について関税を撤廃する方針を各国に説明。
- (C) 既存の EPA では、米、乳製品など全体の 5% に当たる 450 品目を関税撤廃の対象から除外。

<TPP 協定交渉参加に向け他関係国との協議日程及び協議結果>

- (A) ベトナム、ブルネイ、ペルー、チリ、シンガポール、マレーシアとの間で行った交渉参加に向けた協議結果。
ベトナム (1 月 17 日)、ブルネイ (1 月 19 日)、ペルー (1 月 24 日)、チリ (1 月 25 日)、シンガポール (2 月 9 日)、マレーシア (2 月 10 日) とそれぞれ TPP 交渉参加に向け、関係省庁担当者を派遣し、協議を行った。

1) 日本の交渉参加に関する各国の立場:

- ・日本の交渉参加を指示する。
- ・新規交渉参加を認めるための手続きとして、関係大臣を含む委員会の決定等が必要だが、特段問題はない。
- ・日本に交渉参加の条件は特にない。

2) 新規交渉参加について:

- ・全交渉参加国との個別協議並びに全交渉国による参加交渉の承認が必要である。
- ・新規交渉参加国に求める条件としては各国の内容が異なる発言があったが、特段問題とする条件はなかった。

3) 関税撤廃の扱い：

- ・交渉対象については、全てを自由化交渉の対象としてテーブルにのせなければならない。
- ・長期の関税撤廃などを通して、いつかは関税をゼロにする事が基本的な考え方である。
- ・「センシティブ品目」（その国にとっての重要品目）については、全交渉参加国が有しているが最終的には交渉分野全体のパッケージのバランスの中で決める。

(B) 豪州、ニュージーランドとの間で行った交渉参加に向けた協議結果。

豪州（2月21日）、ニュージーランド（2月23日）とそれぞれ TPP 交渉参加に向け、関係省庁担当者を派遣し、協議を行った。

1) 態度表明を保留：

- ・両国とも日本の交渉参加に対し、歓迎する姿勢は示したものの、農業大国の両国は乳製品、牛肉、砂糖、小麦粉等の農産物市場の開放を求める姿勢であり、日本にとって譲歩しにくい品目が並ぶ。
日本が総合的に参加できるかは「交渉参加 9 カ国が合意した基準で参加できる」という日本政府からの明確な声明が必要と、国内調整に手間取る日本政府の姿勢に不満を示した。（新聞報道より）

(C) 最大の関門である米国とは2月7日に局長級の事前協議を実施。

2月21日及び22日、米国ワシントン D.C.において、TPP 交渉参加に向けた協議（実務者級）を行った。

1) 米国との局長級の協議結果（2月7日）：

- Q.米国より、TPP 交渉に参加すれば、全ての品目を自由化交渉の対象とする用意があるか？
- A.日本としては仮に TPP 交渉に参加する場合は「包括的経済連携に関する基本方針」に基づき、センシティブ品目について配慮を行いつつ、全ての品目を自由化交渉の対象とし、交渉を通じて、高いレベルの経済連携を目指す。ただし、どのような自由化が求められるか、しっかりと理解する必要がある。
- Q.米国より、サービス貿易や労働・環境といった TPP の対象となる 21 分野に対応する用意があるか？

A.TPP 交渉で対象となっている関税以外の全ての分野においても、高いレベルの経済連携を目指す、上記と同様、参加各国からしっかりと情報を集め対応したい。

2) 米国との実務者級の協議結果 (2月 21 日及び 22 日):

- ・ 日本側は関連する日本の法令などを説明し、知的財産、関税撤廃など 21 分野について「かなり細かい突っ込んだ協議をした」という。だが、米国は日本に対してコメなどを含め、全ての品目を自由化協議の対象にしなければ「TPP 交渉への参加を認めない」との方針を表明。全品目を交渉対象にすることに、日本の TPP 反対派などは強く反発しており、ハードルは低くない。収穫は全分野の交渉の詳細な情報が得られただけ。(新聞報道より)

(D) 日本の TPP 交渉参加に向けた主な日程！ (新聞報道より)

- ・ (A) の 6 カ国は日本の交渉参加を了承したが、米国、豪州、ニュージーランドは態度を保留のため、継続協議に。
 - ・ 3月 1～9日 : 第 11 回 TPP 交渉参加国 (9 カ国) 会合が豪州にて開催。(日本、カナダ、メキシコの参加について議論するとみられる。)
 - 4月～5月 : 野田首相が訪米 (?)
交渉参加に向けた国内の合意形成が正念場に。
 - 初夏 : 日本が TPP 交渉に参加 (?)
 - 11月 : 米国大統領選
- ・ 日本は 3 月末までに 3 カ国から支持を取りつけ、今夏以後、TPP 交渉に正式に参加するスケジュールを描く。

2 月までの交渉参加に向けた協議結果として:

(A) の 6 カ国との協議では「センシティブ品目の扱いは交渉次第」など、TPP 交渉が柔軟であるかのような見方を示す国がある一方、米国、豪州、ニュージーランドの 3 カ国は「TPP 交渉に参加するためには、農業の重要品目の自由化」を突き付けている。米国は他に「全ての品目とサービスを自由化交渉のテーブルに乗せなければならない」としている。

2 月中には 9 カ国との事前協議が終了しワンステップ進んだが、未だハードル

はかなり高い。だが**米国**の意向によっては全参加国が態度を軟化させ、一転して日本を向い入れる可能性もある。**(新聞報道より)**
今後の展開に注意！

以上